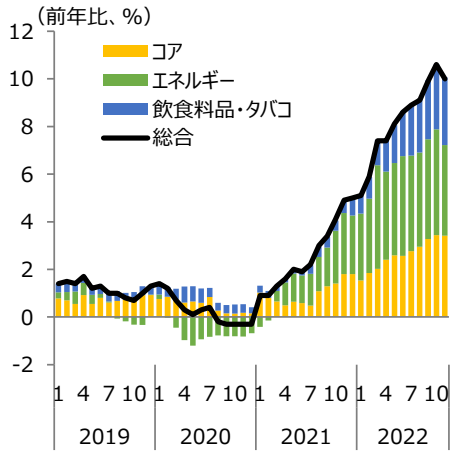
欧州

消費者物価（2022年11月）

物価の伸びは鈍化したが依然として高水準

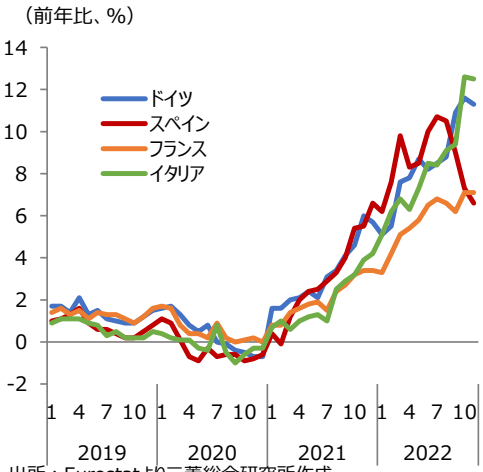
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏、寄与度）



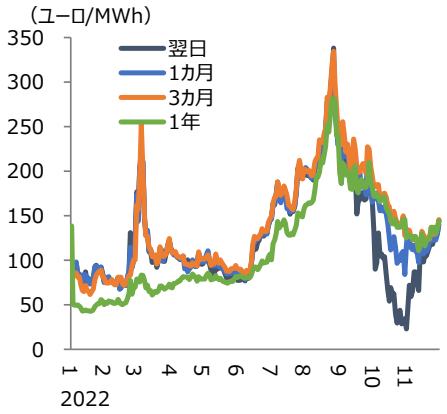
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 消費者物価（主要国）



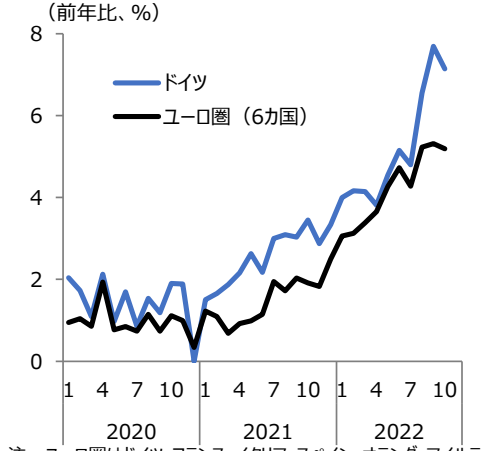
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3 天然ガス先物価格



注：日次。直近は11月30日。
出所：Bloombergをもとに三菱総合研究所作成

4 求人賃金



注：ユーロ圏はドイツ・フランス・イタリア・スペイン・オランダ・アイルランドの6カ国。Indeedの求人広告賃金をもとにしたデータ。
出所：Indeed Wage Trackerより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年11月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+10.0%（図表1）。高い伸びではあるが、伸び縮小は21年6月以来。
- 総合指数の伸びが鈍化した背景にはエネルギー価格高騰が一服したことがある。一方で、ECBが重視するコア物価は前年同月比+5.0%と10月から変わらず、高止まりしている。
- 主要国では、スペインが4カ月連続で伸びが縮小しており、物価上昇がピークアウトしたとみる（図表2）。ドイツ・イタリアは10%超の物価上昇が続いている。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、伸びは鈍化したが依然高水準にある。
- 先行きは、利上げ効果の顕在化とエネルギー制約による経済減速から、物価上昇圧力は徐々に弱まるとみる。ただし、物価の伸びが高止まりするリスクはある。
- 第一に、エネルギー価格の再高騰だ。ガス先物価格は、ガス在庫の確保や暖冬の予報からガス不足懸念が緩和、価格高騰は落ち着きつつある。ただし、冬が近づくにつれ、翌日・1カ月先物の価格が上昇するなど、ロシアからの供給停止・天候など外部要因に左右される不安定な状況に変わりはない（図表3）。
- 来年はロシアからの供給が期待できないなかで、在庫確保が必要となる。中国経済の回復でLNG需要が増加すれば、中国とのLNG争奪戦となり、エネルギー調達コストが上昇する可能性はある。
- 第二に、賃金上昇で物価が下がりにくくなることだ。ユーロ圏の物価上昇の主因はエネルギーなどコストプッシュだが、物価上昇が賃金にも波及し、コア物価の高止まりにつながっている可能性がある。ドイツやフランスでは物価上昇に対応した、賃金交渉や最低賃金引き上げが実施されている。ドイツの求人賃金は22年9月以降前年比+7%超の上昇と加速している（図表4）。賃金インフレとなれば、物価上昇が長期化するだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.